街の元気● みんなの元気を応援します

viva city

ビバ*シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会
石整広報 120

特集 能登半島地震

被災施術所の再建を目指して

サポート接骨石川（SSI）活動報告

VOL. 34

2025
February

苔の里

[柔道整復師倫理綱領]

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民俗医学として伝承してきたところであるが、限りない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。
ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

１、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
２、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
３、相互に尊敬と協力に努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
４、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度を以て接する。
５、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。

街の元気 ● みんなの元気を応援します ●

viva city

ビバ＊シティ

VOL. 34

2025 February

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報120

C O N T E N T S

1 巻頭言
伝統からの学びを未来の糧に　二ッ谷 剛彦

2 ［特集］能登半島地震　被災施術所の再建を目指して
長尾淳彦日整会長が被災施術所へ

6 講演会／研修会

8 サポート接骨石川（SSI）活動報告

11 厚生労働大臣表彰受賞

13 日本柔道整復師会 全国柔道大会
第33回日整全国少年柔道大会
第14回日整全国少年柔道「形」競技会
第5回全国柔道整復師高段者大会

14 教えて先生！　突き指を軽く見ていませんか？

15 secret spot 日用町「苔の里」

16 トピックス

巻頭言
かんとうげん

創立100周年を迎えるにあたり—

伝統からの学びを未来の糧に

ビバ・シティをご愛読者の皆様には、穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より公益社団法人石川県柔道整復師会の活動にご理解ご協力を頂いておりますことに厚く感謝申し上げます。

昨年は、元日の能登半島地震の発生で大変な年明けとなり、被災された方々の現状やお気持ちを考えますと、心が痛むばかりです。本会会員の中にも、未だに復旧に向けて頑張っている先生方もおられ、行政やボランティア団体等々のご支援ご協力を頂きながら、一日でも早く復旧復興作業が完了することを祈っております。

さて、今年2025（令和7）年は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開催されます。今から55年前の1970（昭和45）年、「人類の進歩と調和」をテーマに太陽の塔がシンボルに掲げられ、大々的に日本万国覧会が大阪で開催されました。戦後の高度経済成長を成し遂げてアメリカに次ぐ世界第二位の経済大国となったわが国だけでなく、世界各国からの新技術や文化が結集し未来世界が作り上げられました。例えば、モノレールや動く歩道、携帯電話やテレビ電話、そして、アポロ12号が持ち帰った月の石など、私たちはその時代の最先端技術に驚くとともに未来への夢や期待を抱いたものでした。今年の大阪・関西万博では、どのような未来が待っているのか楽しみにしております。

もうひとつ、今年は石川県柔道整復師会が設立100周年を迎えます。歴史をたどれば1925（大正14）年、わずか7人の先達によって発会され、伝統医療である柔道整復師による骨折の整復や固定、後療といった技術は、今もしっかりと受け継がれています。また、「地域に密着した医療の提供」の考え方や活動も、100年たった今日まで守られ続けています。その一方で、柔道整復師の国家資格を基に機能訓練指導員の技術を活かした患者さんへのフレイル予防の運動指導、各種スポーツイベントでのアスリートへの救護活動、石川県との防災協定による災害時救護活動等々、新たな事業にも積極的に取り組んできました。2013（平成25）年には、石川県からの公益社団法人の認可も取得し、社会に貢献する団体として進化してきました。設立100周年を迎えるにあたり、柔道整復師としての技術や精神を継承しつつ、施術のみでなく健康づくり、在宅ケア、リハビリテーション、福祉・介護サービス等の地域包括医療への参入にも力をいれ、10年後、20年後、50年後の未来を見据えてしっかりと進んでいきたいと決意を新たにしております。

結びになりますが、県民の皆様が健康で安心して暮らせるよう、本会会員一同一層の努力をしていく所存です。今一度読者の皆様におかれましては、これまで以上のご理解とご協力をお願いいたします。

■二ッ谷 剛彦
（ふたつや たけひこ）
（公社）石川県柔道整復師会 会長

［プロフィール］
平成17年より理事を務め、以来、事業部長、保険部長、金沢北支部長を歴任。平成27年4月に副会長に、令和5年5月に第12代会長に就任する。

［特 集］
能登半島地震

被災施術所の再建を目指して

昨年元日の午後４時10分、石川県全域を激しい地震が襲いました。前号では地震直後の災害対策本部立ち上げから救護活動を終了するまでの本会の動きを追いましたが、揺れが大きかった奥能登・かほく市・内灘町では、自らが被災者となり、避難所生活を送りながら施術所の再建を模索する日々を送った会員もいます。

会員 REPORT

再建へ向けてただ無心で体を動かすこと、地域の皆さんの言葉が絶望感から抜け出す支えになった

地盤の液状化が激しかった内灘町西荒屋地区や奥能登地域に施術所がある会員の被害は甚大で、長期間、業務を停止せざるを得なくなりました。また、住居の損壊、断水等で、避難所生活を余儀なくされた会員も多くいます。発災から１年が経過してようやく、施術所再開に至った２人の会員に、それまでの経過や再建を決意した思い、課題などを綴って頂きました。

REPORT 1 課題は旧施術所の再開 地元の皆様の声に応えたい

能登支部　**坂下 竜彦**

令和６年１月１日の地震発生直後より、停電、断水が続きました。自宅(接骨院)も大津波警報で避難した実家も、家具やガラスが至る所に散乱していてとても生活できる状況ではないので、実家に隣接する２階建てのガレージの１階にキャンプ用テーブル、椅子を用意して灯油ストーブ２台とランタン数台で寒さを凌ぎながら過ごしていました。幸運にも食料や水、簡易トイレ、灯油は十分に備えてあったので自宅避難を選択し、自宅と実家の片付けに奔走しました。３日間は車中泊で過ごしましたがどうしても入浴したくなり、１月４日に金沢市の親戚宅へ６時間かけて避難しました。

被災直後の施術所は、玄関の屋根が傾きドアは外れ、スロープの壁が崩落、待合室は棚、テレビ、ウォーターサーバーが倒れ、本棚のものが散乱していました。トイレはタイル張りのため崩壊状態、施術室は収納庫が倒れ、床は書類、施術録や割れたガラス、飛んできた瓦の破片で足の踏み場もなく、壁や天井は抜け落ち見るも無残な状態でした。幸い施術で使用する機器は、棚の下敷きになった１台を除き無事でした。

足の踏み場もないとはこのこと。いったい何から手をつければいいのか、途方に暮れる無惨な状態だ。

地震発生から１か月間は金沢の親戚宅のお世話になりながら、６時間かけて輪島市に帰りその日は車中泊、翌日夕方まで施術所、実家の片付けをし、再び金沢に帰るという生活を繰り返していました。

２月３日に金沢市内のみなし賃貸住宅に入居できることとなり、輪島市熊野町にある実家の改装に着手。地震発生から約半年後の６月10日に業者の協力で旧施術所より機器を搬入、現施術所を再開し今に至っています。現施術所は旧施術所に比べて山あいにあり、患者さんは車でしか来院できないのではないかと思っていましたが、近隣の皆さんがよく来院してくださいます。改めて、柔道整復師の仕事は地域密着型なのだと再認識しました。地震や水害で市民の流出が進み患者数は減りましたが、「足るを知る」精神で乗り切るつもりです。

地震直後は絶望感、不安感に襲われましたが、とにかく動くしかないと腹を括りました。金沢と輪島を往復し、自宅と実家の果てしないゴミ出しや整理整頓を嫁さんと必死に頑張っている間にそういった負の感情もなくなり、現施術所の再開に漕ぎつけた時は達成感や安堵感に浸りました。

今後の課題は旧施術所の再開です。罹災証明書で「半壊」となったことで、解体は公費でできますが、再建となると建築費の高騰や耐震基準のことなど、かなりハードルが高くなります。しかし、ゴミ出しの際に近所の人から「お願い

実家を改装して施術所を再開できたのは被災から半年後だった。

やし、またここに戻って来てね」と声をかけられるなど、いろいろな人から頼りにされていると感じることが多々あります。まだまだ長く大変な道のりではありますが、地域の皆様の期待に応えるためにも力戦奮闘し、旧施術所の場所で再開できるよう頑張ります。

REPORT 2 変わっていく故郷の姿 まだ先は見えないけど 地域のためにも頑張りたい

能登支部　**波佐谷 兼潤**

至る所に倒壊家屋が…。夢であってくれ！

地震発生から数日間は、先ずは生きることに一生懸命でした。被災直後から避難・高齢者誘導をしていたのですが、その道中でもたくさんの方々が倒壊した家の下敷きになっているのを見て「夢であってくれ」と強く願ったことを覚えています。１月１日の夜は車中泊、２日は施術所泊でしたが、道路寸断により近所の状況がわからず地獄のような感覚でした。また電気も水道も無いので、カセットコンロでお湯を沸かしてカップラーメンを食べて凌いでいました。私自身も大変落ち込んで憔悴していましたが、１日の夜に息子が青い顔で「これからどうなるんだろう」と言うのを聞き、「あ、私がしっかりしないとだめだ」という気持ちになり、頑張れたのだと思っています。

１月２日に施術所の状況を見に行きました。建物は傾き、床は盛り上がり棚から物が落ち、

低周波機器が倒れ、重いウォーターベッドが移動し故障しています。目も当てられない状況に、また仕事ができるようになるのか、いつ元の生活に戻れるのか不安が募り落ち込みましたが、それからは施術所に家族で寝泊まりして協力しながら、住家、施術所の修復や掃除をひたすら行っていました。１月５日にようやく避難所へ。こんなに大変な時に、みんなで力を合わせて必死で頑張っている住民の皆さんの姿に感動したことを覚えています。

１月20日に電気が復旧して少し人並みの生活になったものの、水道はまだなのでトイレに困る状況は変わりませんでした。施術所に家族で寝泊まりしながら、住家と施術所の修復作業を行う日々が続きました。

地震発生から半年後、ボランティアや応援の方々のおかげで施術所は再開できましたが、依然として水道は使えませんし、景色も１月１日から変わらず、住民の皆さんも元気がなく、これからどうなるのかという不安ばかりでした。

長尾日整会長（左）からの励ましの言葉が力になった。

その頃に、日本柔道整復師会の長尾会長、本会の二ッ谷会長、堂本副会長が悪路、遠方からお見えになり、気さくに話してくださる長尾会長の心強い励ましの言葉が力になりました。

９月の豪雨では被害を免れましたが、再び被災された方のことを思うと心が痛みます。現在は近辺の家々の解体も進んできました。生まれ育った故郷の姿が変わり、住民の数も激減、町の復興はいつ始まるのか、どんな形になるのか、まだまだ先が見えない状態ですが、柔道整復師として、地域の身近な接骨院として、お世話になった皆さんのためにも頑張って進んでいきたいと思っています。

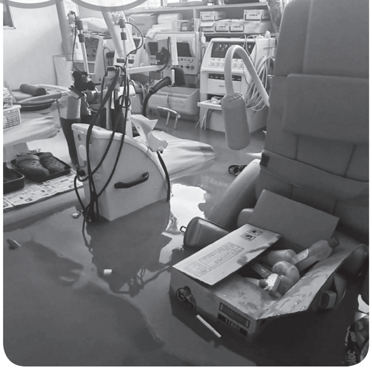
今後に向けて

被災地域に笑顔を取り戻す、そのためにも施術所の再開は必要だ

本会として応援していきます！

長期間の閉鎖を余儀なくされようやく再開に漕ぎつけた施術所、早期の再開はできたが上下水道の復旧の遅れ、停電、道路の寸断などにより患者数減少に悩まされた施術所など被害の状況は違いますが、被災会員それぞれに「患者さんに喜んでもらいたい」「地域のために役に立ちたい」という強い思いがありました。

地震直後の１月から３月にかけて本会は、石川県との防災協定に基づき避難所での救護活動を行いました。その際、施術を受けた方々からは「元の生活に戻ったら馴染みの接骨院に行きたい」「接骨院には行ったことがなかったけれど、近所にあるので落ち着いたら施術を受けてみたい」など、地域に密着し、地域の方々に寄り添ってきた施術所の再開を切望する声が多く聞かれました。



９月の奥能登豪雨でも浸水し、二重に被災した施術所もある。心が折れそうな会員を本会全体で支えていきたい。

施術所の再開は、被災地域に再び明るい笑顔を取り戻すための一助になると実感しました。これからも、本会を挙げて被災した会員や施術所を応援していきます。

応援
message

被災会員を勇気づけたい！

長尾淳彦日整会長が被災施術所へ

日本柔道整復師会の長尾淳彦会長が６月17日、本会の二ッ谷会長、堂本副会長の案内で被災地区に入りました。被害が大きかった施術所に足を運ばれ、被災会員の意見に耳を傾けてくださった長尾会長が、本誌に応援のメッセージを寄せてくださいました。

被災会員の懸命な姿に柔道整復師の原点を見た思いです

公益社団法人日本柔道整復師会 会長　長尾 淳彦

令和６年６月17日月曜日の早朝より、石川県柔道整復師会の二ッ谷剛彦会長、堂本義邦副会長とともに珠洲市、輪島市の被災の甚大な会員施術所へ赴き、お見舞いと激励をいたしました。被災から半年が経とうとしているのに、実際にお伺いすると復興とは程遠い現状を目にしました。

会員施術所を回ると建物や治療機材などが壊れて酷い状態にもかかわらず、会員の先生方は柔道整復を必要とされている地域住民のために施術ができるスペースを確保して、できる範囲の中で施術をされていました。古来より日本全国で、地域住民の支持によって存続の危機を乗り越えて来た柔道整復の、「地域住民とともに」という原点を見せて頂きました。

被災による建物の整理、心の整理をしておられる会員の皆様に「会長、わざわざこんな田舎まで来てくれてありがとう！」「会長もがんばってください！」と、激励に訪れた私が反対に励まされました。ありがとうございました。能登の復興のお役に少しでも立つようにと、令和６年12月15日に開催された日本柔道整復師会70周年記念式典の引き出物として「輪島塗の夫婦箸」をこの日に発注いたしました。

この３か月後の９月21日に発生した奥能登豪雨により再被災されることとなった被災会員から、「心が折れそうになるが、さらに頑張る。日整の仲間がいるから」というお手紙を頂き、組織の存在の大切さを実感いたしました。能登の皆さん、石川県の皆さんありがとうございます。頑張ってください。

公益社団法人石川県柔道整復師会では施術者としてのスキルに磨きをかけるため様々な講演会、研修会を実施しています。

文化講演会

開催日■令和６年11月３日(日)
会　場■石川県地場産業振興センター

身体運動文化

**講師／金沢星稜大学人間科学部
スポーツ学科教授　大森 重宜先生**

PROFILE
早稲田大学教育学部、國學院大學文学部神道学科卒。1984年のロサンゼルスオリンピックで400ｍハードル、４×400ｍリレーに出場。2000年のシドニー、2004年のアテネオリンピックでは陸上競技代表コーチを務め、選手育成スタッフとして活動。現在、金沢星稜大学の陸上競技部部長を務める。

ロサンゼルスオリンピックに出場したアスリートであり、その後のオリンピックでは陸上競技日本代表コーチ、選手育成スタッフとしてご活躍された大森先生。現在は金沢星稜大学の教授であり、また能登地震で被災した七尾市にある大地主神社がご実家で、宮司としての顔もお持ちです。

■身体運動を人々の暮らし・文化の中で考える

青柏祭で有名な大地主神社の宮司を務める大森先生は「世界一足の速い神主」とも呼ばれます。演題にある「身体運動文化 Physical Arts」とは何を指すのか？スポーツはもちろん、武道や祭りで演じられる舞踊、舞踏なども含めて「身体運動文化」と考えるそうです。

大森先生は、「能登は山車祭を何故するのか？」をテーマに論文を書き、スポーツ科学で博士号を取得されました。また、金沢出身のバチカン司祭であるご友人とよく酒を酌み交わし、「神とは何ぞや」を共に考えるそうです。理論物理学者のアルベルト・アインシュタインの「この世に神はいない。されど自然の摂理を神とする。これは正しい」という言葉を紹介し、地震も自然の摂理とおっしゃいます。風を鎮める風鎮祭や大地主神社で毎年行われる青柏祭の話から講演が始まりました。

七尾市民の誇りである「でか山(曳山))」で有名な青柏祭は、でか山に取り付けられた山鉾に疫神(病などを起こす神々)などを招き入れ、海に流す祭りだそうです。その始まりは古く、京都の祇園祭の影響を受けています。863年、京都では裳瘡(天然痘)、咳病(インフルエンザ)、赤痢、マラリヤなどが大流行し多くの死者が出ました。その疫病で亡くなられた人々の魂を鎮めるために行われたのが祇園祭の起源です。その後も富士山の大噴火や地震など大災害が続きますが、そのような状況でも、人々は「散楽」と呼ばれる軽業や曲芸などのパフォーマンスを行いました。このような祭りによって、人々の心

が鎮まりガス抜きになったそうです。祭りの間は疫神をもてなし、最後は禊で元の世界に帰って頂く。日本人は疫病と戦わず、共存を選んだのです。祭りは、安寧を求める人々の間に広がっていきました。

■稲作で培われた日本人の身体的特徴

文化人類学者の川田順造先生が提唱した理論に「文化の三角測量」があります。日本と欧州、西アフリカの文化を比較し多元的にみるというもので、大森先生はその視点で、３つの国の人々の身体的特徴を比較されました。すると、ケニヤ人はハムストリングが長く、フランス人は上半身が大きく、日本人は重心が低いことが分かります。これは環境や生活習慣から形成されたもので、スポーツで例えれば、ケニヤ人は足が速くジャンプが得意、フランス人は投げることに適していて、日本人は引くこと担ぐことが得意と言えます。

日本人には「遊戯性の身体」と「労働性の身体」といった二つの方法が結合した文化の伝統があり、人が成長し完成するまでの土着の訓練、学習方法は稲作文化に通じています。このようにして日常の労働で培われた力で祭りの山車を引き、神輿を担ぐのです。稲作が変わってしまった今、“祭りの身体”が失われているのでは？と大森先生。なぜ、日本人はこのような身体になったのか？ 現代人は、文化的、社会的な身体を再認識しなければいけないのかもしれません。

また大森先生は、祭りの機能である「集団集約的機能」と「アイデンティティ確認欲求充足機能」が、今は失われているのではないかとおっしゃいます。スポーツにも祭りと同様の機能があると考えられ、これらの機能が衰退するとスポーツ教育の価値が失われてしまうと懸念されます。昨今は、コンプライアンスによって学校での部活動が思うようにできない状況ですが、人間の脳は反復することでしかその能力を保持し高めていくことはできません。そして、最後は「ガッツ」であると大森先生は熱く語りました。

会場の会員から積極的な質問が出されていた。

学校の部活動の現状に懸念を示される大森先生。

■お祭りもスポーツも楽しくなければ！

農耕や漁労における身体の使い方、また歩き方、座り方などを「身体技法」と言い、日本の文化は、その「身体技法」で作られてきました。身体技法によって身体は変化していき、文化にも違いが出てくるようです。

スポーツもまた、生活内容によって大きく変化していきます。例えば、白人社会の中で発祥したスポーツ。競技によって階級があり、生活や収入によって競技の選択肢に差が生まれ差別につながります。ところが日本ではそのような差別がなく、理由の一つに学校の部活動の広がりがあると言われています。しかし、その部活動がなくなれば、差別が生じてくるとのこと。今はスポーツに教育的価値が求められなくなり、エンターテインメント化しています。これはお祭りにも言えることで、エンターテインメントとして観光化した祭りだけが残っています。コンプライアンスと健全性だけが求められるような、観光化した祭りにはなんの魅力もありません。大森先生は「楽しいことをやろう！という思いが身体を作り、文化を形成する」という言葉で、講演を締めくくられた後、50年前に消滅した幻の「能登駅伝」の復活を誓われました。我々も心より応援申し上げます。

Support Sekkotsu Ishikawa SSI サポート接骨 石川

サポート接骨石川（SSI）活動❶

金沢マラソン2024

令和６年10月27日（日）、第10回を迎える金沢マラソン2024が開催され、国内外から1万5000人を超えるランナーたちが集まりました。赤十字奉仕団・サポート接骨石川（ＳＳＩ）では金沢市からの要請を受けて、ゴールの石川県西部緑地公園にある産業展示館４号館にブースを設営し、本会会員11名が救護活動にあたりました。

犀川大橋を約15,000人のランナーが通過していく。

この大会は、代表的な観光名所を巡りながら金沢の魅力を満喫できる回遊型コースになっており、景観を楽しみながら走ることができます。また、コース上に設けられた６か所の食べまっしステーション（給食所）では、地元・石川の多彩な食を提供しています。今年は過去最多の1万5112人のランナーが参加。大会組織委員会によると完走者は1万4012人で、完走率92.72％と残念ながら過去最低となりました。その要因としては、日中の最高気温が22.7度とこの季節にしては暑かったからではないかとのことです。しかし、沿道の市民による応援は例年以上に活気があり、22か所の応援スポット・応援ステージでは135団体約4300人が伝統芸能の太鼓や吹奏楽、ダンスなどで盛り上げ、約20万1000人が沿道で声援を送りました。

気温が高かったせいか完走率は過去最低となった。

柔道整復師の本領を発揮できる大事な活動

今大会は能登半島地震や奥能登豪雨の被災者を支援するイベントとして位置付けられています。ランナー募集の際には能登被災地ランナー枠が設けられ、また並行して、チャリティ募金も行われました。私たちも「がんばろう能登・石川」のステッカーを貼って活動にあたりました。

ＳＳＩとして行うのは、昨年に引き続きケガへの救護のみとし、捻挫・挫傷・筋けいれん・機能障害等での痛みを訴えるランナーに対して、テーピングや包帯固定・アイシング・運動指導を行いました。今年は完走率の低下もあってか、例年より早い時間からランナーが訪れ、救護人

ランナーからの感謝が励みに。

64名のランナーがブースを訪れた。

数も64名と去年より多くなりました。
　救護を受けたランナーからは「ほとんど歩けなかったが歩けるようになって嬉しい」「痛みが楽になりました、ありがとうございます」とのお声を頂きました。現場でケガの手当てをすることで喜んでもらえる、柔道整復師として大事なこの活動をぜひ続けていきたいと思います。

Support Sekkotsu Ishikawa
SSI
サポート接骨石川

サポート接骨石川（SSI）活動②

第42回野々市じょんからの里マラソン大会

県内外から789人が参加。

令和６年10月20日(日)、第42回野々市じょんからの里マラソン大会が開催され、県内外から参加した789人のランナーが野々市市民体育館前をスタートして、秋の野々市市内を駆け抜けました。

　今年は猛暑の影響で10月に入っても暑い日が続いていましたが、大会当日の朝は前日とは打って変わっての寒さとなりました。気温の急変に参加ランナーのコンディションが心配されましたが、しっかりと準備運動をして元気よくスタートして行きました。
　この大会は一般の部（10キロ・５キロ）・トリムジョギングの部・ファミリージョギングの部・中学生の部・小学生の部と種目が分かれています。また一般の部は、性別や年齢等で細かくカテゴリーが分けられているため、ランナーの方々は自分に合った種目にエントリーして走ることできます。
　サポート接骨石川（ＳＳＩ）は野々市市民体育館内で救護活動を行いました。コロナ禍の影響などで、野々市じょんからの里マラソン大会の救護活動は久しぶりの実施になりましたが、ゴールしたランナーの爽やかな笑顔を目にすると、無事に活動が終了できて本当に良かったと思いました。
　なお、大会表彰式ではお楽しみ抽選会が行われ、当選者に津田金沢南支部長から「柔道整復師会賞」が贈られました。

柔道整復師会賞を贈呈する津田金沢南支部長。

Support Sekkotsu Ishikawa
SSI
サポート接骨
石 川

サポート接骨石川（SSI）活動③

アマチュアレスリング大会

3日間を通して激しい試合が続いた。

令和６年11月８日（金）から10日（日）にかけて金沢市総合体育館で４つのアマチュアレスリング大会が開催され、（公社）石川県柔道整復師会は金沢市レスリング協会の要請を受けて３名の会員を派遣し、救護活動を行いました。

■第２回ジャパンマスターズレスリングオープントーナメント金沢大会

35～40歳の階級から66歳以上までの７階級のカテゴリーに全国から46名の選手が参加しました。学生時代の部活動などでレスリングの経験がある人がエントリーするマスターズの部と、社会人になってレスリングをはじめたフレッシュマンの部に分かれて試合が行われました。

■第13回北信越少年少女レスリング団体対抗戦

北信越５県の選抜メンバー（7名1チーム）によりトーナメント方式で行い、福井県との決勝戦を制して新潟県が優勝しました。

■第23回北信越少年少女レスリング選手権大会・第19回北信越中学生レスリング選手権大会

241名の小中学生選手が出場した個人戦の大会で、熱戦が繰り広げられました。

参加選手の多さにレスリング熱の高まりを感じる。

マスターズレスリング、少年少女レスリング、いずれの大会でもアマチュアレスリングの質の向上と競技人口拡大の熱意を感じることできました。またこれら４つの大会において当会会員は、16名の負傷者に対して救護活動を行いました。

救護席を訪れた選手にテーピングを施す。

祝

本会から2名が表彰される

厚生労働大臣表彰受賞

令和6年12月15日(日)、明治記念館で開催された「日整法人設立70周年記念式典」において本会の西川典孝副会長に柔道整復業務功労者表彰が、山田俊志理事に労災補償行政関係功労者表彰が授与されました。今回の厚生労働大臣表彰は、長年にわたる柔道整復術の進歩・発展と柔道整復師の資質向上への寄与が認められ、贈られたものです。

柔道整復師が未来に夢を描けるように力を尽くしたい

(公社)石川県柔道整復師会 副会長 **西川 典孝**

【プロフィール】
平成17年より(公社)石川県柔道整復師会理事を務める。事業部長、保険部長、総務部長、金沢南支部長を歴任。令和5年5月、副会長に就任する。

このたび、(公社)日本柔道整復師会の社団法人設立70周年記念式典が東京の明治記念館において開催され、その席上において栄えある柔道整復業務功労者厚生労働大臣表彰を賜りました。このような名誉ある受賞も会員皆様はじめ、ご推薦頂きました二ッ谷会長、関係各位のお力添えと深く感謝を申しあげる次第です。

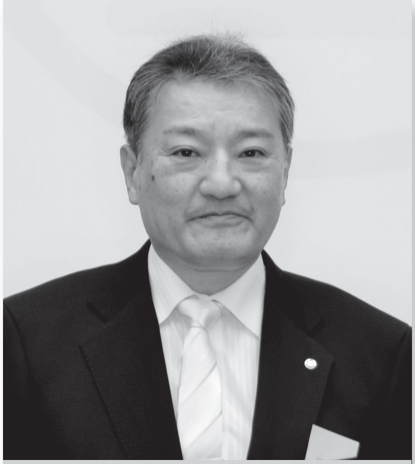
これまで、会員皆様のご理解とご協力を頂きながら推進してきた本会の事業活動が評価されたということであり、会員を代表して頂いたものと思っております。会員皆様には重ねて御礼申し上げる次第です。

受賞に際し、今日までの先達が築き上げてきた事業活動や柔整業務に対する思いを再考し、さらなる組織の発展と会員が安心して地域医療に貢献できるより良い環境の構築、そして会員のみならず次代を担う柔道整復師が夢と希望を持てるよう、事業活動に取り組んで参りたいと思っております。またそれと同時に、今後も多くの会員が受賞の機会を得られるよう念ずるところであります。

結びに会員各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げまして、御礼の言葉といたします。

志高腰低、おかげさまの心で努めてまいります

（公社）石川県柔道整復師会 理事 **山田 俊志**



【プロフィール】
平成15年より（公社）石川県柔道整復師会理事を務める。広報部長、経理部長、総務部長、事業部長、能登支部長を歴任。平成19年より（公社）日本柔道整復師会広報部員を務める。

このたびは、厚生労働大臣表彰を受賞する栄に恵まれました。身に余る光栄です。推薦頂きました二ッ谷会長はじめ関係各位には、心よりお礼と感謝を申し上げます。

柔道整復師養成学校卒業後の５年間の研修期間を終え、本会に入会してやがて36年になります。入会後、本会の支部委員や部員を経て理事を22年間務めさせて頂いたほか、私のようなものを日本柔道整復師会の広報部員として行かせて頂き、日整の仕事に18年間も携わることができました。そして日整の社団法人設立70周年記念式典ではスタッフとして運営に関わることができ、その席上で表彰の栄を賜ったことは大きな記念となりました。

長きにわたり業務を行えたのも歴代会長、役員の皆様、諸先輩方、会員の皆様、本会事務局員の方々のご指導、ご支援のおかげと深く感謝を申し上げます。

今後も柔道整復師の職種を生かし業界発展、国民の健康維持増進に寄与できるよう「志高腰低」「すべてのことを感謝」「おかげさまの心」で、皆様にお仕えしていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

受賞者のお二人を挟んで（写真右から、二ッ谷会長、西川副会長、山田理事、堂本副会長）。

表彰状
西川 典孝 殿
あなたは多年にわたり柔道整復師として国民保健の向上発展に寄与されその功績は誠に顕著なものがあります
よってここに表彰します
令和六年十二月十五日
厚生労働大臣 福岡 資麿

【柔道整復業務功労者表彰】

表彰状
山田俊志殿
あなたは柔道整復師として永年にわたり労働者災害補償保険制度の健全な発展に貢献されその功績はまことに顕著なものがあります
よってその功績を讃えここに表彰します
令和六年十二月十五日
厚生労働大臣 福岡 資麿

【労災補償行政関係功労者表彰】

日本柔道整復師会 全国柔道大会

石川県代表選手 3つの大会で 懸命に戦いに挑む

令和6年11月17日（日）東京都の講道館大道場で日整全国少年柔道大会、日整全国少年柔道「形」競技会、全国柔道整復師高段者大会が開催され、石川県代表として出場した選手たちが熱戦を繰り広げました。

第33回 日整全国少年柔道大会

第37回石川県柔道整復師会旗争奪少年柔道大会で優勝した全日本柔道少年団小松分団が出場。初戦で長崎県代表と対戦し0—5で敗れはしたものの、今大会3位の強豪県を相手に熱のこもった戦いを展開しました。

全日本柔道少年団小松分団の皆さん。

強豪として鳴らす長崎県と初戦で戦った。

第14回 日整全国少年柔道「形」競技会

第1回少年柔道形競技会優勝の窪田柔道倶楽部から西田莉衣桜・酒元心晴音選手の2名が出場。練習の成果を十二分に発揮し、予選ブロックで息の合った演武を見せて高得点をあげましたが、惜しくも決勝進出はなりませんでした。

写真左から酒元選手、西田選手と窪田監督。

息の合った演武を見せてくれた。

第5回 全国柔道整復師高段者大会

南健一会員（加賀支部）が五段の部に出場し、東京都の青沼守選手と対戦。2年前の同大会で一本負けを喫した青沼選手に雪辱を果たすべく挑みましたが、惜しくも引き分けとなりました。

五段の部に出場した南会員。

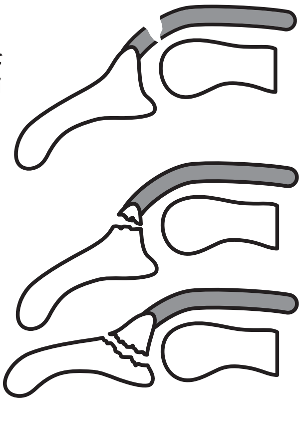
教えて先生!
突き指を軽く見ていませんか?

ドッジボールで突き指をしたお友達が「こんなのヘッチャラ！ 指を引っ張れば治るよ」なんて言っていたけど、そのまま放っておいても大丈夫なのかなぁ…。

突き指とは指先からの外力で指の関節にダメージが加わる外傷のことで、球技などのスポーツをしている時によく起こるよね。日常的によく見られるケガなので軽く考えられがちですが、指の腱の断裂や骨折、脱臼をしていたりするケースもあります。
傷めた指を引っ張ったり揉んだりすると損傷部位を悪化させてしまうので、応急処置をして病院または接骨院へ。

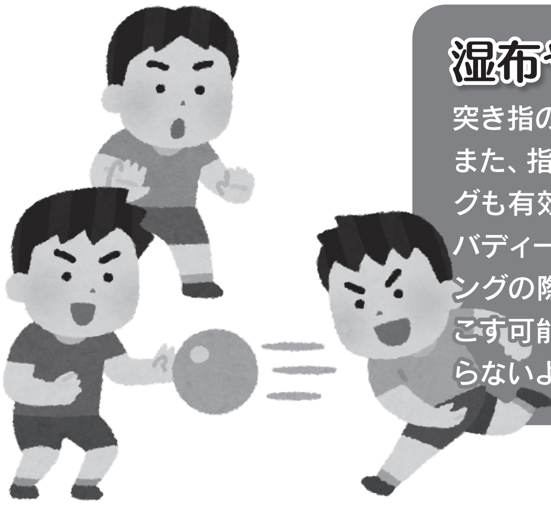
■ 腱の断裂を伴う突き指

■ 骨折を伴う突き指



応急処置って？何をどうすればいいの？

「RICE処置」を覚えておきましょう。
RはRest（安静）、IはIcing（冷却）、
CはCompression（圧迫・固定）、
EはElevation（挙上）です。突き指に限らず、正しい応急処置を行えばケガの回復を早めることができるんだ。
具体的には、ケガをした直後は無理に動かさずに患部を安静に保つこと。炎症や痛みがあるのに無理に動かしてしまうと、ケガの状態や症状を悪化させる恐れがあるからね。そして、氷水を入れたビニール袋などを患部に当てて冷却します。加えて、包帯やタオル、ハンカチなどを用いて適度に圧迫しつつ、患部をなるべく心臓より高い位置に挙上しておきましょう。



湿布やテーピングも有効です

突き指の場合は、冷却するタイプの湿布が適しています。
また、指の動きを制限し痛みや炎症の悪化を防ぐためのテーピングも有効で、特に隣の指と一緒に固定するバディーテーピングが効果的です。テーピングの際、強く締めすぎると血行障害を起こす可能性がありますので指先が赤黒くならないよう注意しましょう。

バディーテーピング

secret spot あなたの知らない石川県

まるでジブリの世界
日用町「苔の里」

苔と杉木立のコントラストが心地よい。

県民には知られていないけど、全国的に有名な場所が石川県にはあります。小松市日用町は粟津温泉から車で約3分、「全国農村景観百選」にも選ばれている里山集落です。人口30人あまりのこの集落に、多様な苔を鑑賞できる日本有数の「苔の里」があります。

清流が町を流れる。

500円の協力金を収めて庭園の中に入ると、一面の苔の緑に驚かされます。ふんわりとしたグリーン色の雪でも積もったような美しさです。そして天に向かってまっすぐに伸びた杉木立もまた見事な光景です。

ここ日用町は、昔から秋田杉と並んで称される「日用杉」の産地で、杉の苗を育てるために落葉を取り除き地面を綺麗に手入れしているうちに、苔も育つようになったと言われています。

道路を渡ると「日用神社」があります。苔におおわれジブリ映画に出てくるような雰囲気です。その近くを流れる小川も水が透き通り、初めて訪れた人も懐かしさを感じる日本の里山がそこにあります。まっすぐに伸びた杉の木と落ち葉一つない苔の庭。手付かずの自然とはまた違う、自然と人間の調和が保たれた美しさを感じることが出来ます。

今も日用町の人々の生活の中にある「苔の里」には、御公務で石川県に来られた際に立ち寄られた眞子内親王殿下（当時）の歌碑があります。歌碑に刻まれているのは日用町を訪れた翌年（平成28年）の歌会始の儀で詠まれた一首で、「心を込めて苔の世話をしている人々の気持ちが伝わるようです」と思い出を振り返っていらっしゃいます。

広がりし　苔の緑のやわらかく
人々こめし　思い伝わる

眞子内親王殿下の歌碑も苔むして。

鳥居や橋の欄干にまで！一面の苔が美しい日用神社。

なるほど、では私は俳句を一句。

苔の里　左おっつけ　大の里

行くか行かないかは、あなた次第です。

Topics -トピックス-

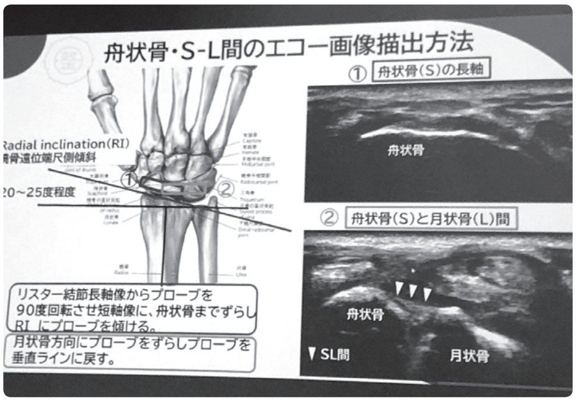
トピックス①

日整主催「匠の技」伝承プロジェクト フォローアップ講習会を受講

令和6年11月10日(日)午後1時から4時まで、令和6年度第3回「匠の技」伝承プロジェクト・フォローアップ講習会が開催されました。日本柔道整復師会と47都道府県柔道整復師会の会場がオンラインでつながり質疑応答など双方向でのやり取りも可能な環境で行われ、石川県は柔整会館3階の研修室で受講しました。

講師は日本柔道整復師会学術部が担当し、①橈骨遠位端骨折の整復・固定　②超音波観察装置による観察について学習をしました。

このフォローアップ講習会は、繰り返し学習することで更に知識を深め、知識と技術を強化するという目的で開催されており、石川県柔道整復師会からは学術部員3名が参加し研鑽を深めました。



質疑応答などもできる環境で、エコーの実習等が行われた。

トピックス②

第65回石川県防災総合訓練に参加

複合災害を想定して101機関、14,281名が参加（視察する馳知事）。

令和6年11月10日(日)午前8時より石川県防災総合訓練が行われました。今回の訓練は、加賀地方で10日未明から明け方にかけて線状降水帯が形成されて顕著な大雨に関する情報が発表、次いで午前8時に森本・富樫断層を震源とする地震が発生し、津幡町で震度6強が観測されたとの想定で行われました。

本会は、津幡簡易グラウンドの応急救護所で行われたDMATによる医療救護活動訓練にサポート接骨石川(SSI)として参加し、緑タグ(ケガによる軽傷者)の要救助者に対して救護訓練を行いました。

実際に土砂災害等を想定した現場を再現し、土砂埋没車両からの災害救助犬による捜索・自衛隊による救出、消防・レスキュー隊による倒壊建物からの救出、ドローンを使用した救援物資輸送など、各機関による訓練が順次行われ、馳知事の視察後に終了しました。

SSIは緑タグの負傷者の救護にあたった。

編 集 後 記

❖今号の特集「能登半島地震 被災施術所の再建を目指して」では、大変な震災に直面したお二人の会員に体験談をお願いし、経験した者しか知りえないことを教えられました。また前号では積極的に救護活動に参加した３人の会員の貴重な体験談を掲載させて頂きました。これからも会員の「生の声」を大切にしながら、次号の取材、編集を進めていきたいと思います。　（森田 記）

❖去年の石川県は、能登半島地震、能登半島豪雨と災害が続きましたが、大の里が昭和から最速で大関昇進を果たした明るい出来事もありました。また世界では、オリンピックパリ大会で日本は金20個、銀12個、銅13個と過去最多のメダルを獲得し、米大リーグで大谷翔平選手が54本塁打、59盗塁を達成しワールドシリーズ制覇を果たしました。私は今年もプラス思考で一年を乗り切りたいと思います。被災された方々の一日も早い復興を祈ります。　（中西 記）

❖去年の夏は記録的な暑さで、屋外のスポーツや作業の際は熱中症等にならないように体調管理に気をつけていました。夏の暑さで海水温度が上がり、この冬は積雪量が増えると言われています。1月に入り東北地方や北海道が大雪とのニュースが流れましたが、石川県も油断は出来ず、日々天気予報の雪マークをチェックしています。雪が少し降る程度で冬が過ぎて、早く暖かい春が来てほしいと思います。　（中川 記）

❖知事表彰を受賞した際、馳知事と一緒の写真を撮って頂きました。実際の馳知事はテレビやニュースで見る印象よりも衝撃的なデカさで、そうかプロレスラーとしては小さい方でも、180センチもあってあの体格ならデカいはずだわと納得しました。が、何よりもっと衝撃的だったのは、その大きい馳知事よりも私の顔の方がデカかったこと。うそー、ずっと普通だと思っていたのに。　（中野 記）

❖「コリオリの力」をご存じですか？地球のように回転する球体の上で移動する物体に、直角右向きに働く見かけの力だそうです。それを聞いても半分も理解できませんが、水槽の排水時に現れる渦に働く力だそう。最近、日本で現れる渦の方向を聞かれましたが答えられませんでした。正解は北半球では反時計回り、南半球では時計回りに渦を巻くとのこと。ボーっと生きてきてしまって、チコちゃんに叱られる人生はまだまだ続きそうです。　（平林 記）

❖年末に実家の片付けをしていると懐かしい物が出てきました。それは46年前に購入した折り目一つないブルース･リーの写真集。彼の代名詞とも言える怪鳥音とカンフーの妙技、そして鍛えられた鋼の肉体に魅了されたのは私だけではないはず。写真集を眺めているだけで、あの肉体を手に入れたと錯覚を起こし、ヌンチャクの代わりに拍子木を振り回し、「アチョー」と奇声を上げていたことを懐かしく思い出しました。　（太田 記）

❖昨年は、元旦から能登半島地震が起こり９月に能登半島豪雨が発生。能登を中心に、石川県にとってはまさに試練の一年でした。被災者の皆様におかれましては、一日も早く以前と同じ日常が戻りますよう心から願っております。九州から近畿地方にかけの南海トラフ巨大地震の発生も危惧されています。「備えあれば患いなし」。平凡な毎日に感謝しながら、日々修練と災害時の心構えの大切さを感じています。　（森 記）

ビバ・シティVOL.34 石整広報120 （2025年２月20日発行）

■発行所／公益社団法人石川県柔道整復師会
石川県金沢市広岡２丁目3-26
TEL076-233-2122㈹ FAX076-233-2196
E-mail ishiju@spacelan.ne.jp
■発行者／ニッ谷 剛彦
■編集者／西川 典孝・森田 一哉・中西　勝・中川　渉・中野 秀人・平林 祐一・太田 信幸・森 陽一朗

撮影　能登支部　中野 秀人 会員
使用カメラ：NIKON D7200
レンズ：タムロンSP17-50㎜
絞り：f/5　露出：1/400
ISO：400
焦点距離：28㎜

［苔の里］
「苔玉」の人気で若い人達にも身近な存在となった苔は、古来より日本文化を象徴する植物として「君が代」にも詠まれています。小松市日用町の「苔の里」は有名観光地ではありませんが、苔の美しさとそこに流れる静寂な時間がSNSでひろがり、今では海外からも多くの人々が訪れます。
撮影では、杉の木の美しさに感動。杉の木を中心に写真を撮っていたら、どれも同じ写真になってしまいました。

公益社団法人 石川県柔道整復師会
石川県金沢市広岡2丁目3-26
TEL076-233-2122㈹ FAX076-233-2196
E-mail ishiju@spacelan.ne.jp
URL https://jyuusei-ishikawa.jp